

経営比較分析表（令和元年度決算）

佐賀県 多久市

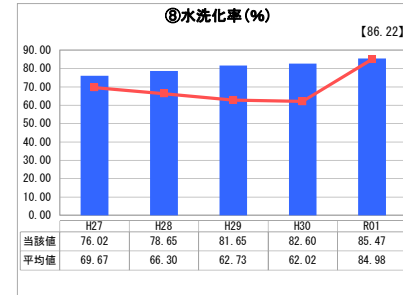
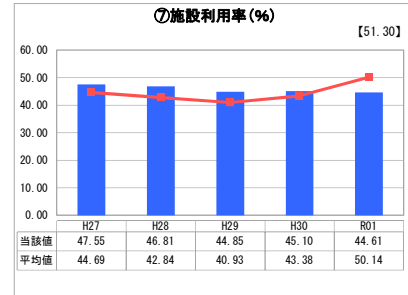
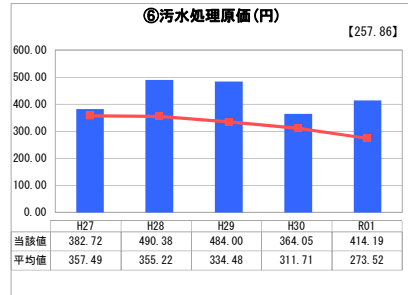
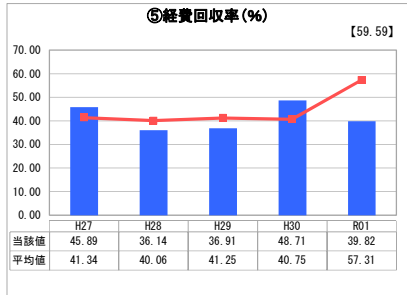
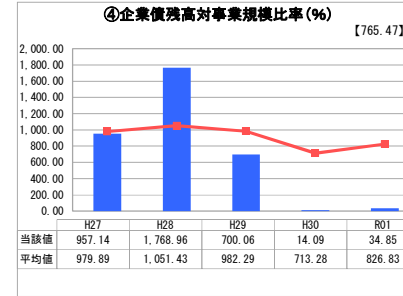
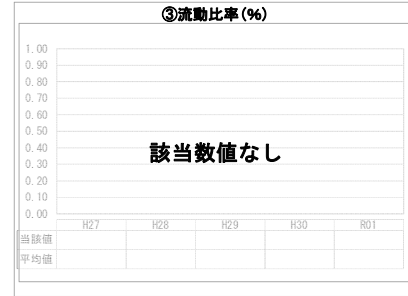
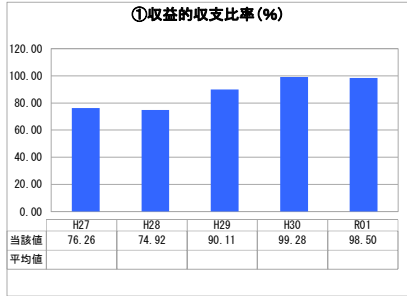
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	5.17	95.10	3,520

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,030	96.96	196.27
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
977	0.57	1,714.04

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

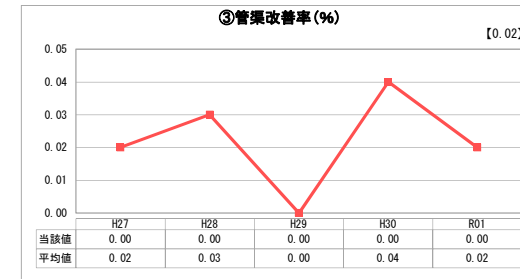
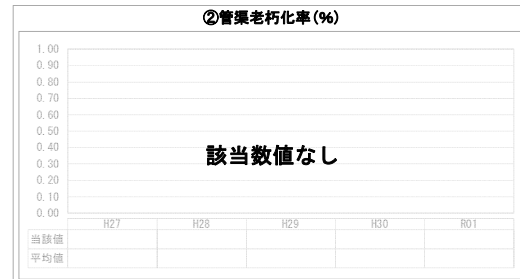
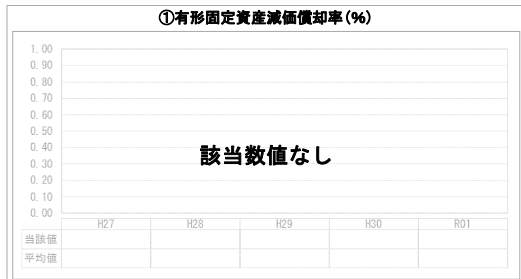
1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率については、前年度に引き続きほぼ100%を示している。今後も更なる改善に努めたい。
- ④企業債残高対事業規模比率については、前年度同様に低い比率となり、類似団体平均よりも低い比率を示している。
- ⑤経費回収率については、使用料収納事務委託が広域水道企業団に変更となり、収納事務手続きから年度内収納が出来なかったための使用料の減収によるものである。今後は、令和2年4月からの使用料改定による経営の健全化を期待する。
- ⑥汚水処理原価については、昨年度は削減を図ることが出来たが、本年度は前年度比で微増となっている。これは、修繕工事等による維持管理費の高騰も一つの要因とされる。
- ⑦施設利用率については、災害年次の中、晴天時平均処理水算出の影響が考慮される。
- ⑧水洗化率については、ほぼ横ばいの微増で推移している。

2. 老朽化の状況について

平成16年度の供用開始であるため、法定耐用年数を超える管渠は該当無しとなっている。
管渠の点検については、必要に応じて実施している。

2. 老朽化の状況



全体総括

汚水処理に係る費用を使用料以外の一般会計繰入金等に依存している状況である。
令和2年4月から使用料単価(160円/m³→180円/m³)の見直しを行い健全な経営を目指している。
老朽化対策につきましては、令和元年度より長寿命化対策支援事業に取り組む事としている。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。